

大学図書館における利用者サービス構想 — 学生主体及び地域共創型図書館の在り方 —

Constructing a Service Program for Users of a University Library — The Student Centered and Community Oriented Library at Chugokugakuen —

(2013年3月31日受理)

松畑 熙一 橋内 幸子 富田 昌平
Kiichi Matsuhata Sachiko Hashiuchi Shohei Tomita
荒木 満子 荻崎 直子
Michiko Araki Naoko Igasaki

Key words : 大学図書館, 利用者サービス, 学習支援, 地域共創型図書館, 大学図書館に対する教職員の意識

抄 録

本稿は、大学図書館としての理想的な在り方を模索しつつ、さまざまな試みを実践してきた中国学園図書館の現時点での運営と活動の報告である。大学図書館として、学生の学習支援を第一の目標とするとともに、地域への貢献への配慮と努力を重ねてきた経緯の結果、学生・教職員と地域という、大学図書館を利用する対象へのサービス構想こそが、本学園の全ての図書館運営と活動の基盤にある。なお、本学園図書館は、「『地域共創型』図書館絵本ミュージアム」[平成20年度私立大学等経常費補助金特別補助(教育・学習方法等改善支援)採択事業]の企画・事業にも示されるとおり、絵本を中心とした蔵書構築と地域連携には特に努力を傾注してきた。

今回は、中国学園図書館の運営・活動の全容を、4つのカテゴリーに大別して紹介する。即ち、①学生の全人育成・学習支援、②地域貢献への取り組み、③読書活動の推進と公共の居場所づくり、④利用者サービス向上をめざした管理・運営とネットワークの活用、である。なお、今回初めて実施した、本学園教職員対象の図書館アンケート調査結果もデータとして簡略にまとめ、図書館を介して学生の教育と研究、及び地域への支援に携わる教職員の意識と意欲をも考察した。

はじめに

現代日本の高等教育の変革期にあつて、大学図書館もさまざまな改革・改善を重ねつつ、時代の要請に応えるべく、日夜努力をしている。最近、「大学図書館のデジタル化、国際化、学習支援」といった学内の教育・研究態勢への支援、そして、学外へは地域貢献も重要課題になっている。まず、図書館内のデジタル化は電子書籍・電子ジャーナルの購入や電子機器の装備、また、国際化は語学や留学生にとって必要な図書を用意することが前提となる。そして、学習支援に関しては、ラーニングコモンズの設置に代表される図書館内の学習環境の整備が検討事項になっている。これらの動向は、まさしく大学

図書館の利用者サービス構想というテーマに収斂されるものである。

中国学園図書館は、中国女子短期大学図書室(昭和37年開設)、中国短期大学図書館(昭和46年設置)を経て、中国学園大学創設直前の平成13年10月に現在の図書館として新設され、名称も現在のものになった。

今回、本稿では、現時点での本学園図書館の業務と活動を概観し、上記の大学図書館の利用者サービス構想が実現されているかを検証するものである。また、本図書館の設備等の現状については、中国学園ホームページを参照していただきたい。なお、本稿は、以下の項目順に論述していく。

I. 中国学園図書館の運営と活動—その全体像

- II. 中国学園図書館の運営と活動－ 1. 学生の全人育成・学習支援
- III. 中国学園図書館の運営と活動－ 2. 地域貢献への取り組み
- IV. 中国学園図書館の運営と活動－ 3. 読書活動の推進と公共の居場所づくり
- V. 中国学園図書館の運営と活動－ 4. 利用者サービス向上をめざした管理・運営とネットワークの活用

- VI. 中国学園図書館への評価と要望－平成24年度末実施の本学園教職員対象アンケート調査結果

I. 中国学園図書館の運営と活動－その全体像

中国学園図書館の活動について、その全体像は以下の図として示しておく。

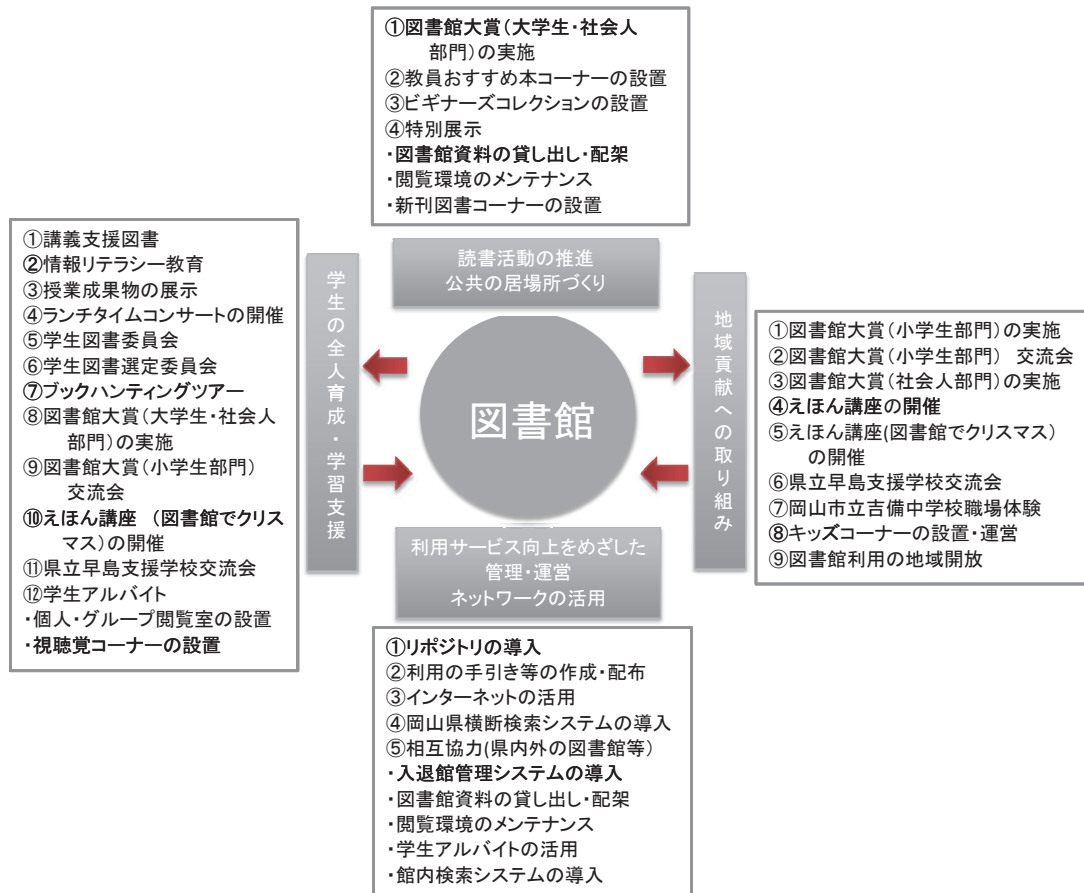


図1 中国学園図書館の運営と活動の全体像

II. 中国学園図書館の運営と活動－ 1. 学生の全人育成・学習支援

なお、上記図1の中で番号がついたもののみ、説明を付記する。以下、III～Vも同様。

1-①講義支援図書

平成14年度から、教科書やシラバスに載せている参考図書に限らず、講義に活用する図書ということで教科担当教員から希望を募っている。同タイトルの図書を、ク

ラス人数の1割程度の冊数(ただし10冊を上限とする)備えることができる。講義支援図書は通常のカテゴリ番号順の配架ではなく、「講義支援図書コーナー」に学科別に配架している。レポートや課題に即した図書であるだけに、利用される頻度は高い。

講義支援図書に先立ち、「課題図書」を設けていたが、この多くはそのまま講義支援図書に組み込まれた。

1-②情報リテラシー教育(図書館利用指導サービス)

図書館を身近に、そしてより一層有効に利用できるよ

う、従来から実施していた文献検索ガイダンスに加え、OPAC（パソコン上の図書目録）の使い方や、テーマに即したキーワードから図書や雑誌記事を探す方法を演習形式で学ばせている。少人数で80分程度で行っている。利用方法を身に付けた学生は、必要に応じて資料を探すことができ、図書館をよく利用する。平成22年4月から、保育学科1年生対象の授業「保育者基礎演習」でスタートし、少人数体制で毎年前期に週1回方式で継続している。また、人間栄養学科では、文献の探し方や取り寄せ方を、図書館での実地的な演習をとおして学習している。この方式は、学部・学科の希望により随時対応している。図書館ならではの利用者サービスの展開は、大学における図書館の重要な役割であり、時代のニーズに対応する情報提供をすることが学習支援に繋がっている。

1-③授業成果物の展示

本学園図書館では、学生が授業で制作した作品を展示したり、成果を発表する場を提供している。「展示（発表）をすることは多くの人に見られること」であり、より力を注いで作品を仕上げたり、次の作品制作への励みになっているという報告も聞いている。また、他学部・学科がどんなことをしているのかわかって良い、という学生の声も多く寄せられている。

展示期間は特に定めず、随時受け付けている。ただし、展示専用の場所があるわけではないので、作品等は持ち込む前に事前に連絡が必要で、その上で他の展示との調整をしている。今まで行った展示の主なもの、健康づくり、食育、動く絵本、園だより、バリアフリー調査、手作り紙芝居、幼児造形、留学報告、介護実習報告等がある。

1-④ランチタイムコンサート

音楽を専攻する学生が、お昼のひととき（約10分～15分間）に授業の成果をミニコンサート形式で行うもので、ピアノの伴奏による歌やフルートの演奏が多い。平成19年7月から図書館としては、図書館機能を損なわない範囲において、5月、7月、10月、12月の年4回の実施を継続している。ランチタイムコンサートは、学生や教職員にとって、優雅な音楽を楽しむ時間・空間として親しまれている。

1-⑤学生図書委員会

学生図書委員会は、図書館の運営と利用促進を目的と

して、学生達が図書館に対する希望・意見を述べ、学生のニーズにあったものに近づけるために、各学部・学科の各学年より1名ずつ委員が選出される形式で、平成18年度後期からスタートした。平成20・21年度は、「学生生活向上委員図書館活動部会」と称し、平成22年度から「学生図書委員会」として独立した。毎年、4月か5月に総会を開き、委員長・副委員長を選出し、学生図書委員としての役割や図書館企画（えほん講座・ランチタイムコンサート等）に積極的に参加することなど、学生と図書館の協働活動について図書館スタッフと話し合い、参加を促す。その他、図書館ボランティアとして図書の配架やカウンター業務を手伝うなど、多くの図書館業務に関わっている。

この学生図書委員の活動は、平成24年3月、京都大学図書館職員が、学生と図書館とのコラボレーションの事例を全国の大学図書館から集めた「学生協働まっぷ」（ネット上）に掲載された。

1-⑥学生図書選定委員会

学生図書委員会の役割の一つとして、学生目線での図書の選定がある。

学生図書委員会発足の翌年の平成19年度から、ほぼ月1回のペースで図書館閲覧室において行っている（前期・後期が始まる月や長期休業中には行わない）。当初は月に1日ないしは2日の日時を決めて選定を行っていたが、学生が学部・学科の行事や補講のために一斉には集まりにくいという事情に鑑み、平成22年度後期からは選定ウィークを設け、その間の空いている時間に随時選定することとした。具体的には、図書館で用意したカタログ類、学生の希望（委員以外の学生からも学生図書委員がリサーチする）などからピックアップしたものを一覧表にし、専門性の高いものから予算に合わせて絞り込みをするという手順で行っている。1回の予算は全員で5万円としているが、実際には6万円超の選定が成されている。また、専門性が高いが故に金額も高いものについては、教員の図書館運営委員と図書館スタッフが行う図書選定委員会に提出し、検討の上、購入することもある。

ブックハンティングツアー（別項を参照）を行う時は、これを選定委員会に代える（予算は別立て）。

1-⑦ブックハンティングツアー

平成19年1月、学生図書委員8人と教職員3人が岡山市内の書店に出向き、第1回ブックハンティングツアーを行った。平成20年から、年2回、前期と後期に実施している。ブックハンティングツアーは、店頭で実際に本を手にとって選書するものである。これは、学生が選書をするというだけでなく、学生が責任を持って自分達の視点を活かした資料を選択することによって、選書力の育成につながっている。成果として、他学科の学生のことも考えるようになり、図書の展示や分類にも興味を持ち、図書館へ足を運ぶ回数が増した。今では、学生のみならず、教職員の参加も増え、毎回、学生と教職員合わせて30人程度で定着している。学生にとっては、書店で選書する体験は、学習意欲に繋がる良い機会となっている。

1-⑧図書館大賞（大学生・社会人部門）の実施

本企画は、学生の読書活動の推進を目的として平成17年度よりスタートした。当初は「中国学園図書館読書感想文コンクール」という名称であったが、平成23年度より現在の名称に変更した。併せて、本学園の学生のみならず地域住民にも対象の幅を拡げた。年間での実施回数は紆余曲折あり、スタート時の毎月実施から年2回実施を経て、現在では年1回実施とされている。7月の応募開始、9月の応募締め切り後、学内に設置した図書館大賞選考委員会による厳正なる審査を経て、受賞作品を決定している。最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作5名を表彰している。

1-⑨図書館大賞（小学生部門）交流会

（2-②の項を参照）

1-⑩えほん講座（図書館でクリスマス）の開催

（2-⑤の項を参照）

1-⑪県立早島支援学校交流会

早島支援学校の児童・生徒が、校外学習として生活体験を広げることを目的に、学園内を散策したり、学生が図書館で行う手遊び、大型絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどの実践をとおしてふれあう。平成22年6月に高等部の生徒2人、保護者、医師、看護師、学校関係者、計8人が来学し、9月は、修学旅行として学内を散策した。そして、平成24年6月には児童生徒5人、帯同者8人（医師・看護師・保護者）、教職員6人が子ども学部

学生6人（いずれも4年生）と20分間交流した。学生側は、授業の成果がそのまま活かせる実践的な機会となっている。

1-⑫学生アルバイト

平成15年11月から図書館開館時間延長がスタートし、毎週水曜日以外の4日間、17:00～19:00まで学生アルバイトとして、学生達が図書館業務に関わっている。彼らは、図書の配架・整理、カウンター業務、パソコン入力、清掃など多くの業務を覚えていく。アルバイトを希望する学生は学生図書委員が多いが、他の希望者には随時、図書館長と職員が説明し、2人体制で勤務している。日常業務を覚えるだけでなく、ボランティアで館内の環境づくりやポスター・チラシの作成、図書館行事への参加など図書館活動に積極的である。このような学生の活動は、他の学生に良い影響を与えており、図書館活動に参加する学生が年々増えている。

III. 中国学園図書館の運営と活動-2. 地域貢献への取り組み

2-①中国学園図書館大賞（小学生部門）の実施、及び②図書館大賞（小学生部門）交流会

本企画は、地域の小学校との交流及び児童生徒の読書活動の推進を目的として、総社市立山手小学校との連携のもと平成20年度よりスタートした。当初は「山手小学校読書感想文コンクール」という名称であったが、平成23年度より現在の名称に変更した。また、平成24年度からは岡山市立吉備小学校も加わり、現在では2校で行っている。7月の応募開始、9月の応募締め切り後、応募作品を1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部に分け、学内に設置した図書館大賞選考委員会による厳正なる審査を経て、受賞作品を決定している。各学年の部で学長賞1名、図書館長賞1名、校長賞1名、優秀賞3名を表彰している。表彰式は学内で行い、学生の実践力や地域貢献意識の向上を兼ねて、表彰式後には学生と小学生との交流会も行っている。

2-③図書館大賞（社会人部門）の実施

（1-⑧の項を参照）

2-④えほん講座の開催

図書館が、地域のボランティア団体や保育園・幼稚園・

小学校とも連携し、講師を招いて「えほん講座」を連続的に行っている。学生は絵本の読み聞かせや手遊び・などを披露し、子どもとの関わりかたを実地に学ぶスキルアップの機会にもなる。こうした地域との関わりは、地域への貢献をとおして学生が育つ地域創生である。

2-⑤えほん講座（図書館でクリスマス）の開催

図書館で年1回、地域を対象としたクリスマス・イベントを企画し、学生達と地域住民が交流する。学生によるミニコンサート・絵本の読み聞かせ・手遊び・食育等の実践など、日頃の授業の成果を発表する機会となる。学長自らサンタクロースに扮するなど、親しみやすい図書館であると同時に、地域との交流は、図書館をキーステーションに学生と地域が直接触れる機会を多くし、地域のアメニティセンター的な役割を果たしている。

2-⑥県立早島支援学校交流会（1-⑪の項を参照）

2-⑦岡山市立吉備中学校職場体験

図書館では平成19年から岡山市立吉備中学生の職場体験学習を受け入れている。

この体験は、「生きる力」を身に付けることや労働の大変さと意義を実感することを目的としている。中学生達は、図書館業務の基本である図書の配架から図書装備・新聞整理・カウンター業務等、図書館の裏方業務ともいえるさまざまな仕事を体験し、改めて仕事の楽しさと図書への関わりに興味を持つようになっている。

2-⑧キッズコーナーの設置・運営

平成17年の一般開放以来、図書館では乳幼児連れの一一般利用者の数が年々増加している。こうした現状を受けて、平成24年度より館内の一角に乳幼児が過ごせる空間としてのキッズコーナーを設置した。キッズコーナーには学生制作の玩具などを配置し、併せて、「0・1・2歳児のための絵本コーナー」も隣接させ、地域の子育て支援拠点の一つとして貢献できるように配慮した。

2-⑨図書館利用の地域開放

他大学の大学図書館同様、本学園の図書館も学生と教職員への学習・研究支援を最優先事項として考え、地域への一般開放は、図書館運営委員会などにより、諸々の体制整備後に開始すべきものと判断されてきた。そのため、地域の方々からのお問い合わせがあっても、長らく、利用への希望に沿うことが無理であった。しかし、貸出形式がカードから機械化によるものに変更され、また、

平成13年10月に現図書館が完成後、徐々にシステムも整えられていった。平成17年には、ひとまず、16歳以上の地域住民の方々に対して、利用を可能にする覚書が図書館運営委員会です承された。そして、平成21年4月に退館システム、平成22年10月に入館システムが設置・稼働が開始し、セキュリティ確保後、一般開放が実現した。現在では、書籍の貸出、読書空間としての利用、キッズコーナー等の活用などを目的に、日々、学園外からの来館でますますの活性化が明白である。

IV. 中国学園図書館の運営と活動ー 3. 読書活動の推進と公共の居場所づくり

3-①図書館大賞（大学生・社会人部門）の実施

（1-⑧の項を参照）

3-②教員おすすめ本コーナーの設置

本企画は、学生の学習支援及び読書活動の推進事業の一環として、平成23年度より「わたしの本棚から」という名称で教職員から推薦図書とコメントを募集し、特設コーナーとして設置した。学生にはより一層の本への親しみと、本との出会いによる学びの楽しさを味わってもらうことを眼目としている。また、地域の利用者に対しても、大学らしいアカデミックな雰囲気発信することができ、大学に対する親近感の増幅を併せて期待している。

3-③ビギナーズコレクションの設置

本企画は、学生の学習支援及び読書活動の推進事業の一環として、平成16年度より専門分野の初学者のために、入門期にふさわしい本を紹介するコーナーとして開設した。各学科教員から推薦図書を依頼し、学科別にまとめて配置している。中国学園の学生のみならず、オープン・キャンパス等で来学した高校生にとっても、自らが選択した専門分野での学びの道筋が推薦図書という形式で見ることができて好評である。

3-④特別展示

常設の展示（写真展示、おすすめ本展示など）・学生の成果物展示のほか、行事や時事に関連したテーマを決めて、図書展示をしている。普段、書架に埋もれている資料を表に出すことによって、来館者に専門分野や好きな分野のみならず、より広範な興味を喚起させることを

目的としている。

最近では東日本大震災や、平成24年5月に亡くなった絵本作家モーリス・センダック氏を特集した。

V. 中国学園図書館の運営と活動－4. 利用サービス向上をめざした管理・運営とネットワークの活用

4－①リポジトリの導入

大学が構築しつつ保管している知識は、とかく大学内に埋もれてしまうことが多かった。しかし近年、大学が持つ学術的・知的資産の公開を望む機運が、大学内にも社会にも高まってきた。そこで確立したシステムが、学術論文や研究成果、及び教材等をデータベース化して、インターネット上に無料配信する「機関リポジトリ」である。

しかし、このシステムを構築するためには、“専門知識と技術を持った人”と“インターネットに配信するための設備”と“設備を導入するための資金”が必要である。多くの小規模大学の図書館では自館での構築はかなり難しい。そこで、これらの問題を解決したのが、「共同リポジトリ」というシステムである。ホストとなる図書館がサーバを持ち、共同リポジトリに参加した図書館はそのサーバに電子化した情報を登録することで、公開が可能になった。

中国学園図書館は、岡山大学附属図書館が立ち上げた「岡山共同リポジトリ」に平成18年12月に参加し（中国学園リポジトリ＝CUR-REN）、著者の許諾を得られた紀要論文を公開した。平成25年2月現在、626件の論文を公開している。インターネットで公開しているため、googleやyahoo等の検索エンジンからも簡単に検索でき、国内のみならず、海外からもアクセスされている。

リポジトリは論文だけでなく、授業のレジュメやシンポジウムの発表原稿、その他「何でも」登録して良いデータベースである。今後の課題は、登録コンテンツを数も種類も増やしていくことである。

4－②利用の手引き等（しおり・手引き・図書館だより等）の作成・配布

図書館の利用方法や活動内容等について冊子やペーパーを作成し、利用者に配布している。

◎図書館の葉

図書館の利用方法、図書館資料の配置場所などを記載した図書館の手引き書。学生用・教職員用・学外利用者用の3種類がある。

学生用は新入生オリエンテーションの時に配布し、また常時図書館のカウンターに設置し、必要時にはいつでも渡せるようにしている。教職員用は数年に一度改訂し、改訂時に全教員及び各事務部門に配布している。学外利用者用は、利用登録時に配布している。学生用と学外利用者用は新年度に合わせて、改訂している。

◎図書館だより

年2～4回不定期発行。図書館の利用法や話題の本などテーマ性のある図書館広報誌で、図書館大賞受賞作の発表も行う。

◎図書館ニュース

年数回不定期発行。図書館のトピックなどをA4用紙1枚で発信し、特別展示や図書館新機能など、主に「お知らせ」的な広報をしている。

4－③インターネットの活用

情報化社会に対応するため、インターネット用の情報端末を館内に6台設置している。この端末は自由に利用できる。ここからさまざまな情報検索や他図書館の所蔵検索などを行うことができる。ただし、画面の印刷やダウンロードには制限を設けている。

文献検索用のデータベースとして、国立情報学研究所の学術コンテンツ・ポータルとmagazineplus（日外アソシエーツ提供）に契約している。図書館からはインターネットに対応したWebOPAC（online public access catalog＝図書館目録）を公開しており、ネット環境の整ったところであれば、どこからでも見ることができる。

4－④岡山県横断検索システム

岡山県図書館横断検索システムへ参加し、平成22年3月から相互貸借がスタートした。岡山県情報ハイウェイの一環として、岡山県内の大学図書館以外の公共図書館・施設・公民館等、館種を超えた県民一般への利用拡大に繋がった。本学園図書館への貸出依頼は、平成22年度37冊、平成23年度64冊、平成24年度27冊である。本館からの相互貸借依頼は、平成22年度26冊（内学生4冊）、平成23年度63冊、平成24年度7冊である。

4-⑤相互協力（県内外の図書館等）

「大学に必要な資料は全て図書館に常備されている」という状況は理想だが、実際はそうはいかない。そのため、不足の資料を補うために、図書館間で協力体制を取っている。相互協力の主なものは、図書館資料の相互貸借、所蔵資料の（著作権に支障のない範囲での）複写・送付、図書館の相互利用である。

資料の貸借・複写については、送料・複写料金などは実費負担である。以前、国立大学に依頼する場合、先払いでないと受け付けてもらえないところが多かった。そのため、文献複写を依頼してから受け取るまでに時間がかかっていたが、料金支払猶予許可を得ることで、その問題は解決された。国立大学が独立大学法人となったことでこの制度は消失したが、それに代わり、国立情報学研究所主導の料金相殺システムが開始され、当館は平成19年度からこのシステムを利用している。また、かつては冊子体の目録（目録がなければ、電話・FAX・文書）を使って所蔵を調べ、文書の郵送またはFAXによる貸借や複写の依頼をしていたが、コンピュータの普及によるウェブサイトの整備により、インターネットでの所蔵検索が可能になり、ウェブを用いた依頼・受付が可能になった。これにより、相互貸借や文献複写に要する時間が大幅に短縮された。本学園図書館においては、平成15年に図書館管理システムを更新した際にこのシステムを導入した。

図書館の相互利用は、実際に他大学図書館等に赴いて、その図書館の資料等を利用することである。以前は、所属大学の図書館から利用先の大学図書館への紹介状が必要であった（現在でも必要な場合がある）。平成6年に岡山県短期大学図書館協会は相互利用の協定を作り、加盟館であれば学生証・教職員証の持参で図書館の相互利用ができるようになった。この制度は、後に発足した岡山県大学図書館協議会にも引き継がれた。また平成14年の中国学園大学創設に伴い、中国四国地区大学図書館協議会に、また、その翌年には私立大学図書館協会にも加盟することにより、これらの協議会（協会）に加盟する大学図書館をも紹介状なしで利用することが可能になった。

VI. 中国学園図書館への評価と要望－平成24年度末実施の本学園教職員対象アンケート調査結果

中国学園図書館では、過去において、学生対象のアンケート調査は数回実施したが、学園全体の常勤教職員対象のアンケート調査実施は今回が初めてである。本稿の冒頭にも記しているように、大学全体に関わる改革・改善方策を考慮する際には、教職員の意識に占める図書館の輪郭とニーズ、希望などを調査しておく必要があるからである。

今回のアンケート調査票名である「中国学園図書館の現状と課題に関する調査」について、その実施内容と結果は以下のとおりである。

1. 方法

(1) アンケート調査内容と方法：

アンケート項目は、9項目（①回答者の所属、②図書館の利用頻度、③図書館の利用目的、④図書館の各活動内容に関する知識と利用の有無、⑤図書館での飲食についての意見、⑥現在の中国学園図書館に対する評価、⑦理想とする大学図書館についての意見、⑧特色ある図書館としてのテーマ、⑨全体的な要望について）で構成されている。無記名方式で、選択肢法と自由表記を使用した。（アンケート調査票様式については、本稿の最後に縮小版で添付。）

(2) 調査対象：中国学園の常勤教職員

(3) 実施時期：平成25年2月～3月

(4) 調査方法：図書館作成のアンケート調査票用紙を配布し、回収

(5) 回収人数：90名（回収率79.6%）

2. 結果と考察

紙幅の関係で、各項目の特徴を簡単に記すのみにする。また、各項目の「その他」や自由表記の箇所に記載されている内容等も有意義で興味深いものが多かったが、全てを網羅するのは無理なので、他の発表の機会にさせていただく。

(1) 回答者の属性(表1)：

回答者は、本学園の常勤教職員である。

(2) 図書館の利用頻度(表2)：

教職員の多忙さを示すように、図書館に出向く等

の頻度は月2-3回程度が多いが、個人差も大きい。

(3) 図書館の利用目的(複数回答可)(表3) :

研究用と教育用とも、図書館資料の利用と借り出しの割合が多いが、図書館を授業や学生と共に利用するケースも多い。その他の利用形態も多岐に亘る。

(4) 図書館の各活動内容に関する知識と利用の有無(表4) :

活動(①図書館予算の学科選定分, ②講義支援図書リクエスト, ③新入生オリエンテーション, ④情報リテラシー教育, ⑤文献検索ガイダンス, ⑥教員おすすめ本コーナー)の各項目については、平均的によく熟知されてはいるものの、利用頻度(%)は将来的に利用を希望する状況である。

(5) 図書館での飲食についての意見(表5) :

不可が70%で、図書館内での飲食が自由なラーニングコモンズの設置や設置場所については、教職員の理解と協力を得つつ、慎重に検討される必要がある。

(6) 現在の中国学園図書館に対する評価(表6) :

施設、資料、スタッフ、活動全般のいずれに関しても、概ね好意的に評価されている。

(7) 理想とする大学図書館についての考え(複数回答可)(表7) :

学科や事務部門により、理想とする内容は多少異なるが、高等教育機関としての理想に沿った結果が出た。即ち、研究用としては、①研究に役立つ資料が多い、②大学図書館間の相互利用、③電子書籍が多い、が上位にある。教育的には、①指導上で役立つ資料が多い、②使用テキストについての参考書や授業用テキストを揃えている、③館内貸出用電子機器(iPadなど)があること、が望まれている。学習支援的には、①専門分野についての学習用資料が多いこと、②多くの学生が静かに勉強できる場所の確保、③一般教養科目についての学習用資料が多いこと、などが挙げられている。新しい学習環境であるラーニングコモンズへの希望は学習支援の中では第4位であった。

なお、その他では、①他大学図書館との連携、②近隣地域への貢献、③特色ある図書館設備・行事・活動、と続き、「グローバル人材養成に配慮した図

書館内の国際化」は、学内外の緊急的な課題の陰に埋もれて、選択用に列挙した7項目中、最下位であった。

○中国学園図書館の緊急の課題と感ずる事項上位3項目(表8)

これも(7)同様、所属による差異はあるもの、現代日本の大学附属図書館における理想的形態に該当するものが上位を占めた。即ち、①館内利用サービスの向上(開館時間の延長、館内閲覧環境の充実など)(39%)、①学習支援(ラーニングコモンズの設置等による自主的学習環境の整備)(38%)、③図書館の電子化(電子書籍・電子ジャーナルの導入)(35%)であった。

(8) 特色ある図書館としてのテーマ :

検討に価する多くのテーマが寄せられたが、大別して、①学習支援、②地域の特性と歴史、③本学園図書館の特長や保管の図書資料を活かしたものが多かった。

(9) 全体的な要望について :

この項目にもさまざまな要望が集まったが、便宜的にまとめると、①大学図書館としての体制・資料・設備のレベルアップ化(静謐な読書空間の確保、開館時間の延長、よりアカデミズムに立脚した多種多様な図書資料の購入、Wi-Fiやkindleといった電子機器・電子書籍・電子ジャーナルの導入、等)、②特色ある図書館活動の継続、等が列挙されていた。なお、大学図書館が第一義的に留意すべきこと、つまり、学生への学習支援や学科の専門性からの要請事項を最優先にバランス良く実現させるべきであるという要望もあった。

(10) アンケート調査結果の各項目に関する表について :

以上の(1)~(7)の各項目について、数値と%で示した表を以下のように掲載しておく。

表1 回答者の所属と人数

学長・事務局	27
現代生活学部人間栄養学科	17
子ども学部子ども学科	15
総合生活学科	8
保育学科	11
英語コミュニケーション学科	5
情報ビジネス学科	6
不明	1
合計	90

表3 図書館の利用目的（複数回答可）

研究用	図書館資料の利用	38%
	図書館利用の借り出し	42%
	読書空間としての利用	4%
	その他	3%
	無回答	42%
教育用	図書館資料の利用	34%
	図書館利用の借り出し	38%
	授業もしくは学生との利用	26%
	その他	1%
	無回答	40%
その他	学科行事などで利用	12%
	図書館行事参加	18%
	スタッフとの相談	20%
	図書検索	15%
	新聞等を読む	13%
	その他	3%
	無回答	46%

表2 図書館の利用頻度

週2-3回程度	7%
月2-3回程度	38%
半期2-3回程度	27%
年2-3回程度	8%
ほとんど行かない	16%
その他	3%

表4 図書館の各活動内容に関する知識と利用の有無

		図書館予算 の学科選定 分	講義支援図 書リクエスト	新入生オリ エンテーショ ン	情報リテラ シー教育	文献検索ガ イダンス	お薦め本 コーナー
知識の有無	はい	79%	70%	88%	62%	71%	87%
	いいえ	16%	25%	10%	34%	25%	12%
	無回答	6%	6%	2%	4%	4%	1%
利用の有無	はい	47%	31%	57%	34%	40%	57%
	いいえ	40%	60%	34%	52%	44%	19%
	無回答	12%	9%	9%	15%	16%	24%

※お薦め本コーナーのみ「利用の有無」ではなく「推薦可能性の有無」を尋ねた。

表5 図書館での飲食についての意見

不可	70%
飲み物のみ可	16%
可	3%
その他	8%
無回答	3%

表6 現在の中国学園図書館に対する評価

	施設	資料	スタッフ	活動全般
非常に良い	12%	6%	27%	34%
良い	42%	28%	34%	44%
普通	34%	47%	28%	16%
やや問題点あり	9%	15%	6%	2%
非常に問題点あり	0%	0%	0%	0%

表7 理想とする大学図書館についての考え(複数回答可)

		学長・事務局 (N=27)	現代生活学 部人間栄養 学科 (N=18)	子ども学部 子ども学科 (N=15)	総合生活学 科 (N=8)	保育学科 (N=11)	英語コミュ ニケーション 学科 (N=5)	情報ビジネ ス学科 (N=6)	合計 (N=90)
研究用	研究に役立つ資料が多い	56%	67%	73%	75%	82%	100%	83%	70%
	電子書籍が多い	15%	39%	40%	25%	18%	80%	0%	28%
	大学図書館間の相互利用	37%	50%	53%	75%	64%	100%	67%	55%
	その他	0%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	1%
教育用	無回答	33%	17%	7%	13%	9%	0%	0%	17%
	指導上で役立つ資料が多い	44%	72%	67%	75%	91%	100%	83%	69%
	電子書籍が多い	15%	17%	27%	0%	27%	60%	0%	19%
	館内貸出し用のiPad等の機器がある	15%	28%	33%	25%	27%	80%	0%	25%
	使用テキストの内容に関連した参考書がある	44%	50%	53%	50%	18%	100%	83%	49%
	使用テキスト以外の授業用テキストを参考書として揃えてある	30%	33%	53%	50%	55%	40%	50%	40%
	その他	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	1%
無回答	37%	11%	7%	0%	0%	0%	0%	15%	
学習支援用	専門分野についての学習用資料が多い	44%	83%	73%	75%	91%	100%	83%	71%
	一般教養科目についての学習用資料が多い	33%	39%	53%	25%	45%	60%	67%	43%
	電子書籍が多い	11%	22%	27%	25%	27%	80%	0%	22%
	多くの学生が静かに勉強できる場所の確保	52%	67%	80%	50%	91%	100%	100%	70%
	学生の学習支援のためのラーニングコモンズのような空間がある	22%	33%	47%	50%	36%	100%	50%	38%
	ライティング・デスクがある	26%	33%	47%	25%	36%	80%	17%	35%
	その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
無回答	26%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	10%	
その他	司書の人数が過不足なくそろっている	19%	22%	47%	38%	45%	100%	50%	36%
	特色ある図書館設備・行事・活動	37%	28%	27%	25%	55%	60%	50%	37%
	他大学図書館との連携	33%	56%	60%	25%	55%	80%	50%	48%
	地域の公共図書館との連携	26%	28%	33%	25%	45%	80%	17%	31%
	近隣地域への貢献	33%	33%	40%	38%	64%	60%	50%	40%
	学園内の各センターとの連携	33%	22%	27%	13%	36%	40%	0%	27%
	グローバル人材養成に配慮した図書館内の国際化	15%	6%	27%	25%	9%	80%	0%	18%
	その他	0%	6%	0%	0%	9%	0%	0%	2%
無回答	30%	17%	20%	25%	0%	0%	17%	19%	

表8 中国学園図書館の緊急の課題と感ずる事項上位3項目

	学長・事務局 (N=27)	現代生活学 部人間栄養 学科 (N=18)	子ども学部 子ども学科 (N=15)	総合生活学 科 (N=8)	保育学科 (N=11)	英語コミュ ニケーション 学科 (N=5)	情報ビジネ ス学科 (N=6)	合計 (N=90)
図書館の電子化(電子書籍・電子ジャーナルの導入)	22%	72%	27%	50%	9%	60%	17%	35%
図書館の電子化(iPadやノートパソコンなどの館内貸出し)	15%	50%	27%	13%	18%	80%	0%	26%
学習支援(調べ学習などの授業支援や図書館情報リテラシー教育の推進)	22%	39%	40%	38%	27%	20%	33%	31%
学習支援(講座、展示会等の企画・運営による読書活動の推進)	7%	6%	13%	25%	18%	0%	33%	12%
学習支援(ラーニングコモンズの設置等による自主的学習環境の整備)	41%	28%	33%	50%	36%	80%	33%	38%
地域貢献事業(一般向けの講座、展示会等による地域の生涯学習支援)	15%	6%	20%	13%	18%	0%	33%	15%
地域貢献事業(子育て家庭向けの講座、展示会等による地域の子育て支援)	26%	0%	13%	0%	36%	0%	0%	15%
地域貢献事業(キッズコーナーの設置等による地域の子育て拠点づくり)	11%	0%	13%	0%	18%	0%	0%	8%
館内利用サービスの向上(開館時間の延長、館内閲覧環境の充実など)	37%	33%	40%	50%	36%	20%	67%	39%
館内利用サービスの向上(魅力ある蔵書構築、配架づくりなど)	33%	17%	33%	25%	27%	40%	50%	30%

結 論

大学図書館の運営と活動については、図書館関連の書籍にも多くのテーマとキーワードで論述されているように、大学組織の全般的な運営にとって重要事項である。本稿は、利用者サービス構想というテーマを巡って、サービスを提供する立場である中国学園図書館の現時点での運営・活動報告と、学生や地域とともにサービスを受ける立場の教職員の意識と希望等を、合わせ鏡のように照応させたものである。本稿の冒頭にも確認したように、先進的な大学図書館の課題は、デジタル化、国際化、学習支援、そして、本学園が特に力を入れている地域連携である。岡山県という地方にあっても、本学園図書館は、デジタル化、学習支援、地域連携に関しては、課題となる領域に向かって意識を高め、着実に前進しているという確信を持つことができた。ただ、国際化に関しては、今一つ、差し迫っての課題に乏しく、教職員の問題意識も留学生の多い大学に比べるとあまり高いとは言えないであろう。

しかし、今回、学長をはじめ、多方面からの協力と支援のもと、図書館運営と活動について、中国学園図書館の利用者サービス構想という中心テーマで、図書館スタッフと学園の教職員が共に考え、意見を出したことは意義あることであった。この報告が、図書館活動をとおして、学園と地域の発展への展望の一助になることを執筆者一同、希望してやまない。

謝 辞

本稿作成に当たっては、アンケート調査「中国学園図書館の現状と課題に関する調査」による分析が必要であり、中国学園教職員の皆さま方にアンケートにご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 安藤友張編著，山本順一監修：『図書館制度・経営論—ライブラリー・マネジメントの現在』，ミネルヴァ書房（2013）
- 2) 逸村 裕，竹内比呂也編：『変わりゆく大学図書館』，勁草書房（2005）
- 3) 加藤信哉，小山憲司編：『ラーニング・コモンズ—大学図書館の新しいかたち』，勁草書房（2012）
- 4) 河島茂生著：『図書館情報技術論—図書館を駆動する情報装置』，ミネルヴァ書房（2013）
- 5) 国立国会図書館総務部企画課編：『デジタル時代における図書館の変革』（公開シンポジウム記録），国立国会図書館（2006）
- 6) 図書館ハンドブック編集委員会編：『図書館ハンドブック 第6版補訂版』，日本図書館協会（2010）
- 7) 日本図書館協会図書館利用教育委員会編：『情報リテラシー教育の実践—すべての図書館で利用教育を』（JLA図書館実践シリーズ14），日本図書館協会（2010）
- 8) 日本図書館研究会『図書館界』編集委員会編：『図書館・図書館学の発展』，日本図書館研究会（2010）
- 9) 根本 彰著：『理想の図書館とは何か—一知の公共性をめぐって』，ミネルヴァ書房（2010）

参考資料:アンケート調査票

中国学園図書館の現状と課題に関する調査

以下の項目について、該当するものの番号を○で囲み、また、自由記述の欄にはご意見等をお書き下さい。

I. ご自身について

(1) 所属

- | | | | |
|---------|---------------|----------------|-----------|
| ①学長・事務局 | ②現代生活学部人間栄養学科 | ③子ども学部子ども学科 | |
| ④総合生活学科 | ⑤保育学科 | ⑥英語コミュニケーション学科 | ⑦情報ビジネス学科 |

(2) 図書館利用について

1) 図書館に行く頻度

- ①週2～3回程度 ②月2～3回程度 ③半期2～3回程度 ④年2～3回程度
⑤ほとんど行かない ⑥その他()

2) 図書館利用の目的(該当するものはすべて、その番号を○で囲んで下さい。)

A. 研究用	①図書館資料の利用(閲覧等) ②図書館資料の借り出し ③読書空間としての利用 その他()
B. 教育用	①ab図書館①図書館資料の利用(閲覧等) ②図書館資料の借り出し ③授業もしくは は学科等の学生 生との利用(1階、2階、グループ閲覧室、個人閲覧室、等) その他()
C. その他	① ①学科行事などで利用 ②図書館行事参加 ③司書らのスタッフとの相談 ④図書 検索(a. 図書検索専用機利用 b. HPからの図書検索) ⑤新聞 等を読む その他()

(3) 図書館についての情報確認(該当する番号に○をして下さい。)

1) 図書館予算の中に学科選定分があることをご存知ですか。(①はい ②いいえ)

ご利用されたことはありますか。(①はい ②いいえ)

2) 講義用の参考資料として講義支援図書をリクエストできるのをご存知ですか。(①はい ②いいえ)

ご利用されたことはありますか。(①はい ②いいえ)

3) 図書館で、以下のような学生の利用指導をしているのをご存知ですか

- ・新入生オリエンテーション (①はい ②いいえ)
- ・図書館情報リテラシー教育 (①はい ②いいえ)
- ・文献検索ガイダンス (①はい ②いいえ)

学科もしくは授業でご利用されたことはありますか。

- ・新入生オリエンテーション (①はい ②いいえ)
- ・図書館情報リテラシー教育 (①はい ②いいえ)
- ・文献検索ガイダンス (①はい ②いいえ)

4) 先生方のお勧めの本を「私の本棚から」というコーナーに集めているのをご存知ですか。

(①はい ②いいえ)

随時募集していますが、今後ご推薦いただけますか。(①はい ②いいえ)

5) 図書館での飲食についてどう思われますか(※図書館の床は絨毯敷きです)。

- ①不可 ②飲み物のみ可(ただし蓋付の容器に入っているものに限る) ③可
④その他()

II. 現在の中国学園図書館について

(1) 図書館施設(建物としての広さや各種資料保管場所としての適切さ、等)について

- ①非常に良い ②良い ③普通 ④やや問題点あり ⑤非常に問題点あり

(④と⑤の理由:)

(2) 図書館資料(書籍・視聴覚資料・その他)の選定や蒐集について

- ①非常に良い ②良い ③普通 ④やや問題点あり ⑤非常に問題点あり

(④と⑤の理由:)

(3) スタッフ(2人の図書館司書+派遣職員+学生アルバイト、等)について

- ①非常に良い ②良い ③普通 ④やや問題点あり ⑤非常に問題点あり

(④と⑤の理由:)

(4) 図書館活動全般(ブック・ハンティング、図書館大賞、各種講座やコンサート、等)について

- ①非常に良い ②良い ③普通 ④やや問題点あり ⑤非常に問題点あり

(④と⑤の理由:)

Ⅲ. あるべき大学図書館について

(1) 理想とする大学図書館とは(該当するものはすべて、その番号を○で囲んで下さい。)

(注1) 2005年頃から、欧米の大学図書館で設置が開始された討論・飲食等ができる空間

(注2) 教員や大学院生が、学生のレポート等の作成支援のために指導するコーナー

A. 研究用	①研究に役立つ資料が多い ②電子書籍が多い ③大学図書館間の相互利用 その他()
B. 教育用	①指導上で役立つ資料が多い ②電子書籍が多い ③館内貸出用のiPadなどの機器 がある ④使用テキストの内容に関連した参考書がある ⑤使用テキスト以外の授業用テキスト(学生参照用)を参考書として揃えてある その他()
C. 学生の 学習用	① ①専門分野についての学習用資料が多い ②一般教養科目についての学習用資料が多い ③電 子書籍が多い ④多くの学生が静かに勉強できる場所の確保 ⑤学生の学習支援のためのラーニ ング・コモンズ(注1)のような空間がある ⑥ライティング・デスク(注2)がある その他()
D. その他	①司書の人数が過不足なく揃っている ②特色ある図書館設備・行事・活動 ③他大学図書館との連携 ④地域の公共図書館との連携 ⑤近隣地 域への貢献 ⑥学園内の各 センターとの連携 ⑦グローバル人材養成に配慮した図書館内の国際化(英語や諸言語の資料、留 学生への学習上の支援) ③ その他()

(2) 以下のうち、本学図書館において早急にすすめてほしいと思う事柄の上位3項目
を選び、カッコ内に順位をご記入下さい。

- () ①図書館の電子化(電子書籍・電子ジャーナルの導入)
 () ②図書館の電子化(iPadやノートパソコン等の館内貸し出し)
 () ③学習支援(調べ学習等の授業支援や図書館情報リテラシー教育の推進)
 () ④学習支援(講座、展示会等の企画・運営による読書活動の推進)
 () ⑤学習支援(ラーニング・コモンズの設置等による自主的学習環境の整備)
 () ⑥地域貢献事業(一般向けの講座、展示会等による地域の生涯学習支援)
 () ⑦地域貢献事業(子育て家庭向けの講座、展示会等による地域の子育て支援)
 () ⑧域貢献事業(キッズコーナーの設置等による地域の子育て拠点づくり)
 () ⑨館内利用サービスの向上(開館時間の延長、館内閲覧環境の充実等)
 () ⑩館内利用サービスの向上(魅力ある蔵書構築、配架づくり等)

(3) 特色ある図書館としてのテーマ(ぜひ、ご提案下さい)

(4) 全体的な要望について(上記の事項以外にも、ご要望があれば、ご記入下さい。)

ご協力をどうも有難うございました。(平成25年2月～3月実施)

写真で見る中国学園図書館行事

1. 学生の全人育成・学習支援 (図1の③、④、⑦、⑧、⑩)



③授業成果物の展示



④ランチタイムコンサートの開催



⑦ブックハンティングツアー（平成24年度第1回参加者）



⑧図書館大賞（大学生・社会人部門）受賞者



⑩えほん講座（図書館でクリスマス）



中国学園図書館（外観）



⑧キッズコーナー

2. 地域貢献への取り組み (図1の①、②、③、④、⑦、⑧)



①図書館大賞（小学生部門・吉備小学校）表彰式



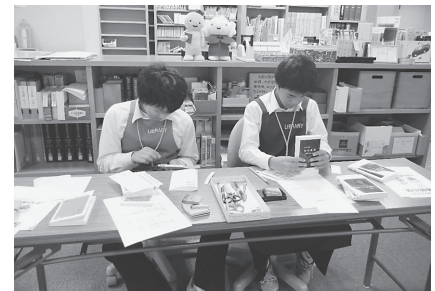
②図書館大賞（小学生部門・山手小学校）交流会



③えほん講座（講師：子ども学部 富田昌平准教授）



④えほん講座（講師：保育学科 角田みどり教授）



⑦吉備中学校職場体験